

入学前課題講評（地域研究学域）

地域研究学域に入学するみなさんには、「課題図書」の解説が課されました。ここでは、「地域を理解する視点と方法」がどのようなものかについて考えて欲しかったのです。しかし、その図書についてほとんど触れることもなく、全く別の文献、なかにはインターネットで得た情報だけで書いているだけのものがいくつかありました。

まずは、前半で「地域を理解する視点と方法」を説明し、後半には本書で紹介されている事例をもとに、より具体的に「視点と方法」を解説していくべきでしょう。そのためには図書を精読し、そのつどポイントをノートに書き出し、それをもとに自分の文章を書くべきです。そして、「あなたの学んだ地域の理解力を、入学後にどのように活かすか」についてまとめてください。

重要なのは、常に読み手のことを視野に入れて書くことです。いくつかの段落に分割する、その冒頭は1文字下げ、適切なところで句読点を入れるなど、文章を書くうえで基本的なことは守りましょう。そして、一度書き上げた文章を音読して、推敲してみましょう。そうすると1文が長すぎたり、主従関係が成立していなかったり、文章表現が不自然であったりする箇所に気づきやすくなります。もちろん、文章は「ですます調」ではなく、「である調」で書きましょう。

文学部では、すべての学域で卒業論文の執筆が必修になっています。地域研究学域では、フィールドワークで得た一次資料をもとに作成した図表を10枚程度作成し、その解説として本文を12,000～20,000字で書くこととなります。入学前に「地域を理解する視点と方法」についていま一度考え、そして文章力の向上に努めてください。